

授業で使える作文素材 II - 2

「五へえさんへ」(45分)

対象／小学生

1. プログラムの趣旨

「稲むらの火」は昔の話ではあるが、震災を通していのちの大切さを実感した児童の感想文を通して、昔も今も大きな災害は起こるもので、その時守るべき、最も大切なものはいのちであること、自分だけでなく他の人々のいのちも大切にしようとする心を育むことができるものとする。

2. ねらい

自分だけでなく他の人々のいのちも大切にしようとする心を育む。

3. 展開

段階	学 習 内 容	教師の支援・指導上の留意点
導入 (7分)	①「稲むらの火」を読んで感想を発表した後、りおさんの感想文の二段落目「くると思っていなかったと思います」(6行目終わり)までを読み、津波は一気に人を呑み込んでしまう勢いのあるものであることを確認する。 ②りおさんの感想文「ざんねんそうではありませんでした」(16行目途中)まで読み、話し合いの方向をつかむ。	・「稲むらの火」や、りおさんの感想文から、2人とも地震と大津波を体験した人物であることをとらえる。また今でも昔でも同じように大きな災害が起きていることをとらえられるようにする。 ・感想をもとに、本時のねらいの方向付けを図る。
展開 (30分)	③五へえさんの行動や気持ちについて考える。 ・地震の後、海を見てどんな気持ちになったでしょうか。 ・大切な稲むらに火をつけた時、どんなことを考えたでしょうか。 ・みんなが助かったと分かった時、どんな気持ちがこみ上げてきたでしょうか。 ④りおさんの感想文の最後の段落を読み、自分にはどんなことができるか話し合う。	・海の近くは危険で高台で状況を見ることが大事であることをとらえ、五へえさんの不安な気持ちに共感できるようにする。 ・稲むらは自分の宝物であるが、最も大切なものはいのちであり、村人を救いたい一心で火をつけた緊迫した状況を把握させる。 ・村人全員が助かった喜びをとらえさせる。 ・「稲むらの火」とりおさんの感想文から考えたことを全体で交流する。りおさんの決意のように自分のこれからの生き方にもつなげられるようにする。
まとめ (8分)	⑤教師の話を聞く。	・災害は自分の目の前にどのように起こるかわからないので、災害について知り、自分だけでなく多くのいのちを大切にしていこうとする気持ちをもたせるようにする。

作文：「五へえさんへ」 釜石市立鶴住居小学校二年 ーささ木 りおー

参考：内閣府「津波だ！いなむらの火をけすな」<http://www.tokeikyou.or.jp/bousai/inamura-pshow-top.htm>

五へえさん、聞いてくださいね。

三月十一日、大きな地しんとおそろしいつなみがありました。わたしは、こわくてなきました。みんなもなきました。五へえさんも、つなみに、あいましたね。つなみがくる前に、地しんがきたのもおなじです。でも、人をおどろかすような地しんではなかったんですね。村の人たちも、まつりのようにでいそがしく気づいていませんでした。まさかつなみがくると思っていなかったと思います。

そのとき、ごへえさんが海を見てくれて本とうによかったんです。海のそこが、見えたんですよ。わたしはつなみからにげたので、海のそこが見えるということがどういうことなのか分からないけれど、ふつうの海ではないと思います。もし、気づかなかつたら、たくさんの人がつなみにさらわれたと思います。

そして、ごへえさんのおじいさんも村の人たちのいのちをまもった人ですね。おじいさんがつなみの話をしていたから、五へえさんはつなみがくると分かったのですから。

五へえさんは、つなみに気づかない村人を高台へにがすために、大切ないねに火をつけましたね。わたしは、五へえさんがどうしていねに火をつけたのか分かりませんでした。いねは、五へえさんにとってたからものだからです。でも、五へえさんはざんねんそうではありませんでした。じぶんのたからものより、村人のいのちの方が大切だと思ったからなんですね。すごいと思いました。

五へえさん、わたしが今すぐ五へえさんのようになるのはむずかしいかもしれないけれど、いつかみんなのいのちをまもれる人になりたいです。でも、今すぐできそうなことも見つけましたよ。それは、五へえさんのおじいさんのように、つなみのことをわすれないでみんなに教えることです。ずっとずっとわすれないことが、みんなのいのちをまもることになりますよね、五へえさん。